

公立大学法人公立小松大学 学長業績評価 評価書

1. 評価

評定	評価
A	優れた業績である

2. 総評

- 「地域と世界で活躍する人間性豊かなグローバル人材を育成する大学」、「地域に対して貢献し、地域によって支えられ、地方を共創する大学」という大学の基本理念に基づき、建学以来の6年間、地方の公立大学として相応しい教育研究活動を行っている。
- 日本全体が少子高齢化の中、今後大学間競争が一層激化することが予想される。多様性が求められる時代にあって、本学が日本の中心に位置する長所を活かして特徴を出した大学運営を期待したい。
- 大学院博士後期課程の設置が認められたこと、さらに大学教育質保証・評価センターが実施する大学機関別認証評価において「大学評価基準を満たしている。」との判定を受けたことは大いに評価できる。認証評価の受審と、博士後期課程の開設に係るご努力に感謝するとともに、今後もこれまで以上に発展されることを念願する。また、小松市長を伴った産官学のシリコンバレー研修を実施できたことも評価できる。全体として優れた実績を上げたかと判断する。
- 教育の質の向上のための体制整備、国際交流と地域貢献を促進する環境整備、および的確な大学の業務運営のために強いリーダーシップを発揮された。また、保健医療学部の学部長代行を兼任され、同学部のガバナンスを大きく改善された。以上の実績は、高く評価される。
- 研究環境については設備などに関して不足していると感じられる部分があるが、これは資源が限られていることに起因している。このような状況下において研究スペースと設備の整備にご尽力いただき、それにエンカレッジされている教員が複数存在することは、高く評価される。
- 学生の質保証、教員の研究水準の向上、大学院課程の定員充足、そして外部資金獲得増、教育研究の特色の深堀等が重要と考える。次期学長後継者の育成に努力が必要である。

(1) 教育 S

- 博士後期課程を整備できたことを高く評価する。学士課程生産システム科学科の定員充足に先生方と共に努力されることを期待する。
- 積極的な学生募集活動により例年並みの志願者倍率を達成した。
- 学生募集と広報の活動継続により学部入学志望者の減少に対応したこと、大学院博士後期課程の設置が認められたことは評価できる。
- アドミッション・ポリシーを掲げて有能な学生を集めることに成功していることを大いに評価したい。入学してからは小松大学の教育の基本理念を卒業するまで実践してきたことが高い就職内定率、各種国家試験合格率に結び付いたと思われる。
- 認証評価結果をふまえて学習成果の見える化が望まれる。
- 教育の質の向上のために、1) 学生アンケート、2) その結果を踏まえた各教員の自己評価(改善方法の考案)、および 3) その自己評価の部局長による確認のシステムを導入された。この結果、アンケートにおける満足度は多くの授業で高いものであった。一方で、一部の極端に学生の満足度が低い講義を担当した教員に関しては、当該教員の講義の状況確認や個別指導を行われた。さらに、学長自らが複数の授業を担当された。以上より、学長の教育の質の向上・維持に対する取り組みは高く評価される。
- きずな合宿、青松祭行事、小松市民レガッタへのボートサークル出場などを通じて地域との連携、協力のもとで着実にキャリア教育に取り組んでいる。
- 身近な学びの拠点として市民公開講座を継続実施している。

(2) 研究 A

- 大学院を開学できたことは研究の幅を広げ深化させることになり小松大学の発展に大きく寄与するものと評価したい。科研費の獲得にもこれまで以上に努力していただきたい。
- 研究水準の向上、全員による研究費獲得に努力されることを期待する。
- 公立小松大学ならではの特色ある独創的な研究を支援するため、『学長戦略重点研究「つよみ」』を継続し、「歩行回復を目指すブレイン・マシン・インタフェースシステムの開発」を採択した。
- 学長戦略重点研究つよみを継続して学際的研究を推奨していること、次世代考古学研究センターを軌道に乗せたことは評価できる。
- 重点研究「つよみ」や次世代考古学研究センターの研究を学内外に十分に発信している。
- 限られた金銭的・人的な資源の中で、可能な限り優れた研究環境を提供することに努力された。特に、末広キャンパスには研究棟を新設していただき、また共通の実験機器・設備の整備いただいた。研究環境は、他大学に比較して限られている部分があるが、その中で教員の研究マインドを促進するために学長自らが尽力された。このことを理解し努力している教員が複数の学部にいる。このような教員をサポートするためにも、大学として支援する研究テーマの戦略的な選定が必要になると考えられる。

(3) 国際交流 A

- 学生派遣の人数を増やす。その為の旅費獲得(JASSO等)を強力に進める必要がある。
- 全般的に安定した国際交流を続けている。
- 国際文化交流学部の学部学生の留学先となる、米国、オセアニア地域、アジア地域などの多くの大学との関係を整えられた。また、保健医療学部の学生に対しても短期留学の機会を与えていただいた。さらに、保健医療学部の教員と学生には JICA 北陸研修に関わり、他国の保健・医療について考える機会を提供いただいた。加えて、上記の海外派遣や研修の事業の際には、講義を務めるなど学長自らが積極的に業務を担当された。
- コロナウイルス禍に翻弄された4年間であったが、留学生の派遣、受け入れといった国際交流がしっかり地に根付いており安心した。
- シリコンバレー研修を産官学の合同として実施したことは大いに評価できる。
- 「JICAアフリカ諸国保健医療研修」をアフリカ諸国の青年指導者に実施し、小松大学から国際的な視点で医療を考える機会を提供した。
- 「シリコンバレー研修」の一環として宮橋小松市長とともに日本国サンフランシスコ領事館、スタンフォード大学等を訪問するなど国際交流事業にも取り組んでいる。

(4) 地域貢献 A

- シリコンバレー研修には小松市・4企業・12名の学生が参加し、今回は小松市の職員の参加が加わり、産学の取り組みから産官学への取り組みに幅を広げた。また、帰国後に大学主催のフォーラムなどで成果を上げることができた。
- 小松市、企業、および大学の学生が参加した産官学合同シリコンバレー研修では、学長自ら研修先を訪問された。また、小松市またはその近隣地域の企業や医療施設の関係者、および本学の教職員と学生が参加したシーズ・ニーズマッチングシンポジウムや市民公開フォーラムを開催された。学長の地域貢献に対する取り組みは高く評価される。
- シリコンバレー研修や「こまつ市民大学」の参加者や受講生より大会評価を得ている。
- 「こまつ市民大学」の取り組みは多様な講座を各種団体と企画から広報活動まで協力体制のもとで2,000名の参加者を得ている。
- 地域貢献に関しては町家の利活用、こまつ大学の運営、シリコンバレー研修等活発に活動している。
- シーズ・ニーズマッチングシンポジウムにおいて地元企業と学生との交流の場を設けたことは企業側に非常に好評であった。
- 堅実な地域貢献活動を行っている。

(5) 業務運営 A

- 教員組織の運営、意識向上のためのガバナンスを効かせた運営が望まれる。
- 学長として各種の学内会議において職責を果たし適確な大学運営が行われた。また同時

に、保健医療学部長代行として、同学部教授会の適切な運営などの保健医療学部と大学院ヘルスケアシステム科学専攻のガバナンスを改善された。さらに、外部機関による認証評価に向けて、大学の自己点検・評価体制を整えられた。学長の業務運営への取り組みは高く評価される。

- 学長のリーダーシップでもって大学機関別認証評価を受審し、「大学評価基準を満たしている。」との判定を受けたことは大いに評価できる。
- 良好な教育研究環境の維持・向上をはかるべく、継続的な施設設備の充実が求められている。その一環として 2023 年6月、末広キャンパス研究・実験棟が竣工した。引き続き、中央キャンパス拡充等に尽力しながら、公立大学としての将来への発展に向けて取り組むことを期待したい。
- 事務職員に対する FD・SD 研修がなされており、職員のやる気を引き出す良い施策と思われる。